

バランスシート・行政コスト計算書でわかる町の資産と負債

バランスシートや行政コスト計算書はなぜ必要なのでしょう？

現在の地方自治体の決算書は「歳入歳出決算書」と呼ばれるもので、歳入歳出を対比させるものです。

しかし、この歳入歳出決算書では、町が本当の意味で黒字なのか、赤字なのかは分からないのです。歳入より歳出が大きくなり赤字になり、あるいは貯金を取り崩したり、地方債(借金)を発行すれば収入となり、黒字にすることができず。これでは財政の中身がどうなっているか分からないのです。

さらに、施設を建設すれば消耗品を買ったのとは違い、これは同時に資産となるので支払った代金全てが費用となつたわけではありません。みなさんが家を建てて建設代を払っても家は資産として残ります。むしろこれから年々減価していった価値がいくらなのかコストになるの

でこの点が大事なのです。

地方公共団体の公会計は単年度の現金主義であることが特徴です。1年間の収入がどのような目的で使用されたかを明らかにすることが主目的で、過去に支出した金銭により形成された資産の状況は表示されません。

そこで民間企業が用いている「企業会計的な手法」を導入して、町が行政サービスを提供するためにどのくらいの資産を保有し、その資産を保有するためにこれまでの世代がどれだけ負担したのか、これからの世代の負担する金額はいくらなのかを明らかにするために「バランスシート」を作成しました。

そして、歳入歳出決算書では池田町が行政サービスを行ううえでいくらか経費をかけてその対価の収入がいくらかあるのかが分かりません。よって、人件費、福祉サービス、各種団体への補助金といった支払った金額が目に見えるものと、現金支出を伴わない減価償却費等を含め資産形成

につながらないコストを計算し、全体のコストに伴う収入を計算します。それにより行政サービスのコストと収入の差し引きである収支がでて、いくら黒字であり、どれだけ税金等を補填しているのかを明らかにするために「行政コスト計算書」を作成しました。

そもそもバランスシートとはどんなものですか？

バランスシート(貸借対照表)とは、一定の時点において保有するすべての資産、負債等のストックの状況を総括的に表示した報告書です。バランスシートでは、図のように、借方(左側)には資産、貸方(右側)には負債と正味資産が表示され、資産＝負債＋

正味資産という関係にあります。負債と正味資産は、行政活動に必要な資金がどこからきたか(資金の調達)を、資産はその調達した資金を何に使ったか(資金の使途)を表しています。町の財産、町債などの債務の状況や

償還能力を明らかにしてバランスシートを見ることにより、町にどのような財産がいくらあるのか、住民負担がどのくらいあるのかを対比して、来年度以降に引き継ぐ財産と住民負担が分かれます。

バランスシートからわかること

平成18年度末における普通会計の資産総額は306億8、100万円であり、前年度より1億300万円増えています。資産のほとんどが公共施設や道路といった行政財産である有形固定資産が占めています。地方債は、67億9、600万円であり、公共施設や道路を中心とする有形固定資産に対する地方債の割合は24.8%(前年度23.3%)となっており、前年度に対して1.5%増えています。これは温知小学校校舎の建設費に借金をしたのが要因です。

資産から負債を引いた正味資産は、いろいろな財産を手に入れるための財源のうち借金によるものが示されています。正味資産は231億4、700万円(前年度234億8、400万円)であり、有形固定資産の84.3%を占めています。

バランスシートの

用語説明①

有形固定資産

町が所有している土地、家屋、構築物などの固定資産の残存償却額を計上してあります。土地代は買った時の価格を計上してあります。主な資産としては、庁舎・保育所・リサイクルセンター・斎苑・農林道・町道・公営住宅・防火水槽・小中学校・公民館・図書館・総合体育館・給食センター

投資及び出資金

町が行政活動を行う上で必要な団体への投資や出資したものです。

特定目的基金

福祉など特定の目的のために積み立てる貯金のようなものです。

退職手当組合積立金

職員の退職金を支払うために組合に積み立てた金額です。

現金・預金

不況などで大幅に税収が落ち込んだり、災害などで予期せぬ支出が発生するなど、将来の資金不足に備えて預金している積立金や年度末に町が保有している現金と金融機関に預けている預金です。